



【祝福される幸いな家庭の十戒(3)】

説教者: 鄭南哲牧師

— 神様の御名によって生きる家庭 —

(Rev. Jung nam-chul)

聖書本文: 出エジプト記20章7節・ピリピ人への手紙2章6-11節 / 暗唱聖句: 詩篇141篇3節

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安のうちにお元気でしたか。

新しい6月が始まりました。今月中にも 愛するみなさんが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるように救い主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます！

今日は十戒の中で三番目の戒めである“あなたの神の御名をみだりに唱えてはならない。”についてのメッセージです。

神様の御名に対して、日本語の聖書では“みだりに”ですが、ヘブル語だと、‘シャウエ(shase)’で書かれています。

これは本来 “むなしい(in vain)”もしくは“価値なし(worthless)”という意味です。

これはつまり、単純に神様の御名をみだりに唱えてはならない程度だけではなく、あらゆる領域において神様の御名をむなくするか、価値なしにしてはならないという意味です。この命令を積極的に言い表すと、神様の御名を尊重し、神の御名を崇め、その御名に相応しく生きる人生を送らなければならないとのことです。もちろん神様は人々が神様を尊重してもしなくても、当然、尊重されるべき方であり、我らが御名を汚したり、冒瀆(ぼうとく)することで、神様の存在が御名が汚れたり、冒瀆されるお方では決してありません。しかし、神様は何よりも神様を信じる民をとおして神様の御名があがめられることを喜ばれ、望まれる神様であられることを今日の十戒の戒めはよく教えて下さっているわけであります。私はこの命令が実践されるべき場所がまずどこよりも家庭だと信じます。なぜなら、家庭とは、神様の御前で神様の御名によって夫婦となると誓約し、神様の価値と祝福を実現させるために造られた共同体が家庭だからです。

(1) 神の御名を信じる者としての言葉遣いの慎重と注意

今日のこの三番目の戒めは本文7節に、主の御名をみだりに唱えてはならないと警告しています。神様の御名をみだりに唱えることは罪だと言います。みだりに唱えることは価値なし汚す、冒瀆するという意味です。するとどうすることが我々を救われた主の御名を価値なしにすることでしょう。例え、イザヤ預言者は、神の前で、心のない言葉だけである二重的な行いと偽善的な姿がまさに、神の御名をみだりに唱えることだと指摘して下さいました。

イザヤ書29章13節に、「そこで主は仰せられた。「この民は口先で近づき、くちびるでわたしをあがめるが、その心はわたしから遠く離れている。彼らがわたしを恐れるのは、人間の命令を教え込まれてのことにすぎない。」

イエス様も、マルコの福音書7章6節に、上の御言葉を引用しながら、全てを見つめておられ、知っておられる神の前で、言葉では主よ、主よと言いながら、実際の生活において、心と行いは神様の御言葉と御心に関心もなく、遠く離れているイスラエルの民の偽善的な姿こそ、神様が忌み嫌われることであり、それが罪であることを指摘して下さいています。「イエスは彼らに言われた。「イザヤはあなたがた偽善者について預言をして、こう書いているが、まさにそのとおりです。『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。』」出エジプト20章の十戒をもっと分かりやすく翻訳された聖書では“わたしの名をむやみに呼んではならない”と書かれています。

今日はさらに深刻ではありませんか。実際今日英語圏の国では “神”とか“イエス”という単語が悪口に使われることをよくみることができます。一番大切に崇め礼拝すべき神の御名が人が使われる一番下品な言葉に転落されてしまっているのではありませんか。いったいなぜこのようになったのでしょうか。サタンがそうさせたのです。きよい聖なる御名を人がけがらわしく、軽んじく変質させて、むやみに使われる言葉かのようにさせています。ですからイエスキリストを信じる信徒たちは特に言葉遣いにおいてサタンの道具にならないように気をつけなければなりません。もちろん、健全なユーモアを使えることは神様からのたまものだと思いますが、自分勝手に神の御名を駆るんじくゆったり、度を過ぎた冗談で神様をいたずらしたり、自分勝手に神の御名によって誓約や約束しながら、すぐひっくり返したり、守れなかったり、心と言葉が一致してないままで心は離れているのに、むやみに主よ、主よ！とただ唱えたりすることすべては、神様の御名を冒瀆することなので、警戒しなければならないことを聖書は教えて下さっています。

①民数記30章2節「人がもし、主に誓願をし、あるいは、物断ちをしようと誓いをするなら、そのことばを破ってはならない。

すべて自分の口から出たとおりのことを実行しなければならない。」

②レビ記5章4節「人が口で軽々しく、悪いことまたは良いことをしようと誓う場合、その人が軽々しく誓ったことがどのようなことであっても、そしてそれに気づかなくても、彼がそれを知ったときには、これらの一つについて罪に定められる。」

③申命記23章23節「あなたのくちびるから出たことを守り、あなたの口で約束して、自分から進んであなたの神、主に誓願したとおりに行なわなければならない。」

④伝道者の書5章6節「あなたの口が、あなたに罪を犯させないようにせよ。使者の前で「あれは過失(あやまち意味)だ。」と言ってはならない。神が、あなたの言うことを聞いて怒り、あなたの手のわざを滅ぼしてもよいだろうか。」

ですから、歴史的にイスラエルのユダヤ人たちは神様の尊い聖なる御名を恐れむやみに呼んではならないという警戒したため、「ヤフェ、エホバの御名」を直接使わずに、代わりに「アドナイ」という呼び方で表記しながら神様の御名を代わりにするほどもものすごく慎重に使われていたことが分かります。

愛する信仰の家族のみなさん！どうして、神様は神の御名を信じる全ての人々にも、口の言葉に対して厳重に注意をさせて下さっているのでしょうか。罪人である我らは言葉で御名に相応しく語るより、罪の影響が何よりも、言葉で表れやすいところであり、それが結局神の御名を信じる者として、神の御名を証しすることになるからであります。

①ヤコブの手紙3章9-10節に、「私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たちこのようなことは、あつてはなりません。」

②エゼキエル書33章31節「わたしの民はあなたの前にすわり、あなたのことばを聞く。しかし、それを実行しようとはしない。彼らは、口では恋をする者であるが、彼らの心は利得を追っている。」

「口に入る物は人を汚しません。しかし、口から出るもの、これが人を汚します。」(マタイの福音書15章11節)

③エレミヤ書9章8節「彼らの舌はとがった矢で、欺きを語る。口先では友人に平和を語るが、腹の中では待ち伏せを計る。」

④ユダの手紙1章16節「彼らはぶつぶつ言う者、不平を鳴らす者で、自分の欲望のままに歩んでいます。その口は大きなことを言い、利益のためにへつらって人をほめるのです。」

ですから、神様は使徒パウロのエペソ人への手紙を通してこう教えて下さっています。「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」(エペソ4:29)

ですから何よりも、教会の中でも言葉で、だれかに傷つけることがないように、だれかを非難しないように、人をつまずかせることがないように、自分の口で罪を犯さないように警戒し、気をつけることが神の御名を信じる者たちのふさわしい言葉遣いであることが分かります。特に、家庭内で親こそ子供たちのために信仰についての言葉遣いの模範とならなければなりません。

言葉はその人がもっている価値観を伝える手段だと言われます。家庭で神様という言葉が軽々しく使われるとき子供たちは親の信仰の価値を冗談くらのレベルに格下げしてしまうかもしれません。特にお願いしたいことがあります。

家庭で、特に子供たちの前で主の教会や主に仕えている働き人や教会の家族とか教会の働きに対してネガティブで批判的に話すことを気をつけてください。子供たちは親の言葉遣いをおして価値を学習されます。口をあげたら教会や働き人を非難する家庭で育てられた子供たちがどうやって信仰について肯定的に、心を開くようにと期待することができるでしょうか。

私は今までの教会生活をとおして子供たちが信仰から離れる二つの原因が家庭にあることがわかりました。一つは親が教会生活はしますが、家庭で実際的に信仰生活の模範にならない場合、そして親がいつも教会や牧会者たちに対して否定的な像を持っている場合、結局、信仰が子供たちに流れるのが妨げになることをしばしば見てきました。言葉に気をつけましょう。言葉が種となります。敬虔な話、上品な言葉遣い、人を立てる言葉、励ます言葉、あたたかい言葉、肯定的な言葉を使ってみてください。きっと子供たちが変わると信じます。

## (2) 聖書に書かれている神様の御名とその意味(The meanings of God's name in the Bible)

そしたら、もう一つ大切なのは、みなさんは神の御名についてご存じでしょうか。我々は神様がどのようなお方であるか、そして神の御名にどのような意味と真理を持っておられるお方なのかを知らなければ、日常の生活の中で、神の御名を崇め、その御名にふさわしく行うことができないと思います。

みなさんご自身も、家庭も祝され守られ幸いに生きる家庭となられる道は、まず、神の御名を知り、その神様を体験することにより、御名を崇めて生きる事ができると信じます。聖書を読んで見ると、我々が信じている唯一な神がさまざまなお名前に意味をお持ちであることをご存知でしょう。それぞれの神様の呼び名は、神のご性質と我々への力と御恵みの一面を表しています。例え次の8つの名前に注目しながら、神がどのようなお方であるかを考え、今週一週間も祈りの中で、賛美の中で、御言葉の黙想の中で、主の御名を思いめぐらして歩みましょう。

### ①【義なる神】(The LORD Our Righteousness.): アドナイ・ツイケヌ (Jehovah-Tsidkenu) 「主は私の正義」

『その日、ユダは救われ、イスラエルは安らかに住む。その王の名は、「【主】は私たちの正義」と呼ばれよう。』

(エレミヤ書23:6): あなたはありのままの私を受け入れ、イエス・キリストによって赦してください。

### ②【共におられる神】(THE LORD is there.): アドナイ・シャンマ (Jehovah-Sammah) 「主はここにおられる」

『その日からこの町の名は、『主はここにおられる』(エゼキエル書48:35)

: あなたはここにおられます。私は決して一人ではありません。

### ③【羊飼いなる神】(The LORD is my shepherd, I shall not be in want.): アドナイ・ロイ(ラア) (Jehovah-Rohi or Raah)

「主は私の羊飼い」: 『【主】は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません』(詩篇23:1)

: あなたは私を導き、養い、守ってくださいます。

### ④【備え主なる神】(The LORD Will Provide.): アドナイ・イルエ (Jehovah-Jireh) 「主の山の上には備えがある」

『そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、「【主】の山の上には備えがある」と言い伝えられている。』(創世記22:14)

: あなたは私が願う前から、私の必要をご存知です。

### ⑤【癒やし主なる神】(For I am the LORD, who heals you): アドナイ・ラファ (Jehovah-Rapha)

: 「わたしは主、あなたをいやす者である」

『そして、仰せられた。「もし、あなたがあなたの神、【主】の声に確かに聞き従い、主が正しいと見られることを行い、またその命令に耳を傾け、そのおきてをことごとく守るなら、わたしはエジプトに下したような病気を何一つあなたの上には下さない。わたしは【主】、あなたをいやす者である。』(出エジプト記15:26)

: あなたは、私の体、心、すべての関係を癒やすことがおできになります。

### ⑥【聖なる神】(I am the LORD, who makes you holy.): アドナイ・マカデシュケム (Jehovah-Mekoddishkem)

: 「わたしはあなたがたを聖なるものとする主である」

『あなたがたは、わたしのおきてを守るなら、それを行うであろう。わたしはあなたがたを聖なる者とする「主」である。』(レビ記20:8): あなたは私を清めて、キリストに似たものとして下さいます。

### ⑦【平安の神】(The LORD is Peace.): アドナイ・シャロム (Jehovah-Shalom) 「主は平安」

『そこで、ギデオンはそこに【主】のために祭壇を築いて、これをアドナイ・シャロムと名づけた。これは今日まで、アビエル人のオフラに残っている。』(士師記6:24)

: あなたはどのような状況にあっても平安を与えてくださいます。

### ⑧【勝利の神】(The-LORD-Is-My-Banner.): アドナイ・ニシ (Jehovah-Nissi) 「主はわが旗」

『モーセは祭壇を築き、それをアドナイ・ニシと呼び』(出エジプト記17:15)

: あなたは戦いや対決の日に際して私の勝利とされます。

聖書に記録されているこのような神の御名を日々自分の中に覚え、黙想し、祈りの中でこの神の御名を信じ告白しながら呼び求める時、われらに大きな力と支えと平安が訪れると信じます。

## (3) 神様はイエスキリストの御名によって救われ、ふさわしく生きることを望んでおられます。

使徒パウロはピリピ人への手紙2章で、イエス様はご自分を卑(いや)しくし、この地に来られ、十字架の死にまで至り、それゆえ、神様はその方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになられたとかかれています。

8～11節に「キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてが、ひざをかがめる。すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」とされています。

旧約の神様は新約聖書で神の御子ご自身イエスキリストが人となられ、この地に来られた人類の唯一な救い主であられる御名であると教えて下さっています。今日の本文のもう一つの箇所であるピリピ人への手紙2章で使徒パウロを通して、キリストは神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとは考えないで、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられ、しかも、十字架につけられ、死なれました。

なぜそうされたのでしょうか。

“人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。”(マルコの福音書10章45節)

ですから、神様は御子イエス様を通して我々を救うため、我々の罪を背負って我々の罪の代価を払うために贖いのいけにえとなってくださったのでその御名の他に人が救われる神様からの道はないわけであります。聖書は「この方以外には、だれによっても救いはありません。世界中でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」(使徒の働き4:12)とされています。

マリヤがイエス様を御霊によってみごもったとき、天使がヨセフにマリヤからのメシヤ誕生を予告しながらこう言います。“マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。”(マタイの福音書1章21節)

作詞家であるリディアベックスターはこのような賛美歌を作詞しました。

“イエスの御名は世の望みであり、天国の喜びである。” なぜ主の御名が大切ですか。その方の御名によって我々が救われたからです。ですからイエスキリストの御名は神様から全人類に与えられている救いの望みとなったからです。

特に、聖書で神様は人が唯一の真の救い主として御子イエスキリストの御名を信じ、言葉で言い表すことを何よりも大事にされ、喜ばれるお方でありことが分かります。

「すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」(ピリピ2:11)

ローマ人への手紙10章9-10節「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

ローマ人への手紙15章6節「それは、あなたがたが、心をつにし、声を合わせて、私たちの主イエス・キリストの父なる神をほめたたえるためです。」

我々は神様の御名、イエスキリストの御名を生活の中で救い主イエスキリストの御名によって生きる事、その名を信じて赦され、救われ、もはや神の子どもとして相応しく生きる時こそ、神の豊かな恵み、救い、赦し、平安を頂ける唯一の道であることを聖書が証言して下さいます。

#### (4) 我らの家庭が神の御名をあがめ・御名の栄光があらわされる現場となりますように！

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今日私たちは神様の御名に相応しい信仰と生き方を保つ時に、教会、会社でもそうですが、特に、我らの家庭はさらに神の栄光が表される場として祝福され用いられるように切に祈ります。それはどう生きることでしょうか。

我らは、イエスキリストの御名を通して神に感謝と賛美を捧げ、御名をほめたたえ、崇めることができます。「ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありません

か。』(ヘブル人への手紙13章15節)(詩篇34篇1節、詩篇63篇3節、66篇17節)

我らは、イエスの御名によって祈り、主に感謝しつつ、父なる神と会話と交わりが出来ます。(ゼパニヤ書3章9節:「彼らはみな主の御名によって祈り、一つになって主に仕える。」/詩篇109篇30節)

我らの証しと伝道を通して、イエスの御名を知らない人々にその御名を分かち合うことが出来ます。

我らの愛の行いを通して、イエスの御名で愛を分け与えることが出来ます。

我らの礼拝を通して、その御名によって集まり、神の御名をあげながら、その御名の力を体験出来ます。

我らは、神の御言葉を通して神の御名による新たな力と恵みを毎日受け、ふさわしい生きる事が出来ます。

神の御名、イエスの御名が我々の存在の理由と生きる目的を示させ、人生の祝福と家庭の幸せに導きます。

信仰生活とはまさにその神の御名をあげ、神の栄光をあらわせる人生として生きることです。

教会だけではなく、家族と共に礼拝、祈り、証しと御言葉を持って、神の愛を分かち合うことによって我々は神様の御名を崇めることが出来るのです。人生の大事な決定の時に、主の御名に頼りて祈り、神様の全能なる御手に委ねて見て下さい。

例え、引っ越す時、就職する時、仕事をする時、子供の進学を決める時、人生の大切な時、いつも神様が喜ばれ、御名を崇めることがどのようにすることなのか探り祈り御言葉を通して示されてから進んで見て見て下さい。必ず、主がその御名にふさわしく御心のうちにみなさんに最善をなし、報いて下さると信じます！！

その時、ようやく回りの人々にみなさんがキリストを信じるクリスチャンであることを証明できると信じます。そしてみなさんの家庭はいつも主の御名を尊重する家庭、主の御名をあげめる家庭、神様が喜ばれる家庭、神の栄光をあらわす家庭となっているのかも一度点検して見ましょう。

イエス様の弟子たちの中、ペテロもイエス様の前でどれほど、言葉の過ちをたくさん犯したものでしょうか。

彼は、老年になって時、主にあつて、人生を振り返って見ながら、こう証しています。「いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押さえて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、悪から遠ざかって善を行ない、平和を求めてこれを追い求めよ。」(第一ペテロの手紙3章10-11節)

ヨブ記2章10節でみると「ヨブはこのようになって、罪を犯すようなことを口にしなかった。」ヨブの信仰のすばらしさに一言でこう評価して下さい。口で罪を犯すようなことをしなかったと。どれほど言葉に気をつけ、慎重であったのかがわかるでしょう。まさに、詩篇141篇3節の祈りを毎日したのではないかと思います。

「主よ。私の口に見張りを置き、私のくちびるの戸を守ってください。」アーメンでしょうか。アーメン！我らもこの御言葉を毎日祈る必要があるのではありませんか。

また、今日から、マタイの福音書5章16節の御言葉通り「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあげるようにしなさい。」と決心に、キリストを信じる者として主の御名がみなさんとみなさんの家庭を通して崇められ、神のご栄光が輝くクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！

救世軍の創始者であるウィリアム・ブ-スが死を迎えるとき子供の一人がブ-スに近づいてきてお願いします。“お父さん、大変かも知れませんが、この遺言書に署名して下されば、残る財産を通し、お父さんを大事に分けて使う度にお父さんを一生覚えますので。”すると、ブ-スはしずかにうなづいて彼の前に開かれている書類に何とか署名した後、その書類は封じられました。ところが、彼が召された後、書類を開けたとき、家族は驚きの事実と直面しなければなりません。父であるブ-スが残した最後の書類のサインにお父さんの名前がなかったのです。その代わり、最後に書き残された名前はイエスキリストでした。彼が最後まで残したかった名前、彼が世を離れる瞬間までつかみかかった名前、そして彼の子どもたちが一生つかんでほしいと期待した名前、彼が家族に残すしたかった最大な遺産はお金ではなく、イエスの御名だったのです。愛するクリスチャンプレイズ教会のみなさんはみなさんの家庭に、家族に何を残したいのでしょうか。自分の人生において、みなさんの家庭において、我々の教会で主の御名はどれだけ大切にされているのでしょうか。この7月、そして一生我らの家庭で尊い救い主イエスキリストの御名を崇め、礼拝し、その御名を信じる者として重んじ、ふさわしく生活する事により、神に栄光を帰するクリスチャンプレイズ教会の全神の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祝福し、祈ります。